

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名： 独居高齢者数と台帳登録者数の乖離

内容： 単身高齢者数は増加(R2:13,620人 → R8予測:16,153人)している一方、「単身高齢者台帳登録者数」は減少しています。

この乖離は、どのような理由で生じていると分析していますか？

① 背景

・熊谷市の単身高齢者数は将来推計で増加している一方、市が把握している「単身高齢者台帳登録者数」は減少している。

・転院・施設入所・市外転出・届出漏れなどで、最新データに反映されていない可能性がある。

② 理由

・行政施策は「把握できている人」を前提に設計されるため、台帳から漏れている人は支援の入口にすら立てない。

・数字が減っている＝問題が解決している、とは限らない。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・第1回審議会資料の単身高齢者数や単身高齢者台帳登録者数の集計表は、アンケート回答の補足資料用に使用したいと考えています。

・単身高齢者台帳は、民生委員による見守り活動を目的として、高齢者ご本人の希望により民生委員を通じて登録申請されるものですが、高齢者ご本人が見守りを希望しない、個人情報を出したくないという方であったり、また、お亡くなりになる方もいらっしゃいますので、分析をしているわけではありませんが、そのようなことが、登録者数の減少の要因ではないかと考えます。しかし、このことは、必ずしも見守りが必要な高齢者が減少しているということにはなりませんので、アンケートの際の誤解を避けるために、単身高齢者台帳登録者数の補足資料への使用は再検討したいと思います。

・具体的な施策については、来年度、検討していきたいと考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 地域とつながりのない独居高齢者の把握

内容: 近所付き合いや地域活動に参加しない独居高齢者について、
 ⑤現在の施策で“把握できている人”と“把握できていない人”の割合を、市としてどう認識していますか？

① 背景

・現行施策は、自治会・敬老会・サロンなど何らかの地域参加を前提としているものが多い。

・しかし、実際には地域活動に全く関わらない独居高齢者も増えている。

② 理由

・本当に孤立リスクが高い人ほど、行政の目に入りにくい。

・「参加している人を手厚くする構造」になっていないかを確認する必要がある。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・割合は不明ですが、潜在的に孤立のリスクがあり把握が可能な高齢者には、単身高齢者台帳登録者、高齢者虐待・権利擁護事案の相談者、市や地域包括支援センターへの相談者、介護保険サービス利用者などがいると認識しています。
 ・一方で、地域活動に全く参加せず、かつ行政サービスや民間サービスも利用していない方は、把握は困難であると認識しています。市民アンケートの設問4、4-1、4-1-1、8、9、16等の回答を踏まえ、具体的な施策について来年度に検討していきたいと考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 成果指標(KPI)が「量」止まりではないか

内容: 敬老会補助金や老人福祉センターについて、現在は「参加人数」「延べ利用者数」が主な指標ですが、それが「孤立防止」「健康維持」「要介護化予防」にどの程度効果出たのか、つながったかを測るKPIは設定されていますか？

① 背景

- ・多くの事業で成果指標が「参加人数」「利用者数」「実施回数」に留まっている。
- ・孤立防止や健康維持といった本来の目的との関係が見えにくい。

② 理由

- ・数が増えても、生活の質が改善していなければ意味が薄い。
- ・次期計画に向けて、評価の軸を見直す必要がある。

③ 補足

- ・「やったか」ではなく「効いたか」という視点で評価すべき。
- ・行政自身が成果を語る構造を作るきっかけになるのではないか。

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・第1回審議会資料の敬老会補助金や老人福祉センターの集計表は、アンケート回答の補足資料用に使用したいと考えています。

・御指摘にある「効いたか」というアウトカム指標の視点は、具体的な施策を検討する上で重要と考えますので、来年度検討していければと考えています。

・敬老会式典への年一回の参加や、老人福祉センターでの利用(例:午前中來館→お風呂→カラオケ→退館)といった活動は、外出して他の人と交流があるため、「参加人数」や「利用者数」は「孤立防止」の指標となり得るのではないかと思います。一方で、「健康維持」や「要介護化予防」といった複雑で長期的な成果との相関関係や因果関係は、測定が困難であるため、このような場合には、「参加人数」や「利用者数」のような、成果に影響を与えそうな行動を指標とするしかないかなと思いますが、事業の効果を適切に可視化できるような指標がありましたら御助言いただければ幸いです。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 利用者増は「新規」か「常連」か

内容: 老人福祉センターの利用者数は大きく増えていますが、その増加分は“新規利用者”でしょうか、それとも“同じ人の利用頻度増”でしょうか。
 ◎この内訳は把握されていますか？

① 背景

- ・老人福祉センターの延べ利用者数は増加している。
- ・しかし、同じ人が頻繁に利用している可能性がある。

② 理由

- ・延べ人数だけでは、**利用していない層(独居・男性・後期高齢者)**の実態が見えない。
- ・施策が固定化していないかを確認したい。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

- ・第1回審議会資料の老人福祉センターの集計表は、アンケート回答の補足資料用に使用したいと考えています。
- ・誠に恐縮ですが、集計表及びグラフの「一日平均利用人数」の数値に誤りがありましたので、次のように訂正させていただきます。
- 「一日平均利用人数」は、R2は125人、R3は125人、R4は155人、R5は223人、R6は251人、R7は292人見込みです。ここでR2は一年間換算、R7は4施設換算です。
- 申し訳ございませんでした。
- ・老人福祉センターの利用者数は延べ人数での集計が主であり、個人単位での新規・リピート利用の頻度までは厳密に把握できていませんが、施設の管理スタッフのお話では、同じ利用者が毎日のように頻繁に来館しており、ときどきお友達を連れてくるといった状況です。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: デジタル弱者(排除リスク)

内容: 今後、申請・情報提供・相談のデジタル化が進む中で、スマホやマイナンバーを使えない高齢者が“制度上は対象だが、実際は利用できない”状態にならないための、
②非デジタル導線はどこまで確保されていますか？

① 背景

- ・申請・周知・相談のデジタル化が進行している。
- ・一方で、スマホやマイナンバーを使えない高齢者も一定数存在。

② 理由

- ・制度上は公平でも、利用できなければ存在しないのと同じ。
- ・デジタル化が新たな格差を生んでいないか確認したい。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

- ・現状、市役所の手続きは非デジタルが多数であり、今後さらにデジタル化が進んでもアナログがゼロにはならないと思います。
- ・手続きのために窓口に来庁された方の、手続負担軽減等については、市全体として検討していくことになると思います。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail: [REDACTED])

(FAX: [REDACTED])

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: デジタル弱者の「人数」を把握しているか

内容: デジタル施策について、
③「利用できない人が何人いるか」を把握する指標は設定されていますか？

① 背景

- ・デジタル施策は「使える人」のデータは蓄積される。
- ・しかし、「使えない人」はデータ上、見えなくなりやすい。

② 理由

- ・見えないものは、政策判断の対象にならない。
- ・排除される人数を把握しない限り、対策は打てない。

③ 補足

- ・デジタル弱者を「個人の問題」にしない。
- ・行政の責任として可視化して、取りこぼさない発想が必要ではないか。

<事務局使用欄>

事務局受付日 2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・利用できない人の人数を把握する指標の設定はありません。なお、前回の令和5年度のアンケート結果では、インターネットの利用について「使い方がわからない」との回答が、アンケート回収数1,140票のうち211票で18.5%となっています。また、類似設問でスマートフォンを持っていないと答えた160票のうち「使い方がわからないから」という理由が51票で31.9%、「電話以外の機能を使用しないから」という理由が58票で36.3%となっています。

・デジタル利用に関しては、高齢者個人の努力に頼ることへの限界を感じていますが、来年度において政策検討していればと考えています。

・スマートフォンを持っている人に関することになりますが、設問27-1の選択肢に「行政のオンライン手続き」を追加したいと考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 敬老関連予算は本当に必要な人に届いているか

内容: 敬老祝金・敬老会関連事業は、支出額が増加傾向にありますが、
 ☞その費用が「孤立リスクの高い層」にどの程度届いているかを評価したことはありますか？

① 背景

- ・敬老祝金・敬老会補助などは、一定の公平性を保って実施されている。
- ・しかし、孤立リスクの高い人ほど参加・申請しにくい。

② 理由

- ・「平等に配る」と「効果的に使う」は必ずしも一致しない。
- ・財源に限られる中、重点化の視点が必要。

<事務局使用欄>

事務局受付日 2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

- ・敬老祝金や敬老会における敬老祝品などの金品については、例外的な事例はありますが、民生委員、敬老会主催者、市職員により手渡しでお渡ししますので、高齢者本人に届いています。
- ・百歳訪問、最高齢者訪問についても、市職員・長寿いきがい課長が、寿状・花簪・記念品を持ってご自宅や施設を訪問し、高齢者本人に直接手渡ししています。市長が同行する場合があります。なお、令和7年12月の百歳訪問は9件、翌1月は19件の予定です。
- ・敬老会式典の案内等については、主催者の方が実施されていると認識しています。
- ・敬老祝金等給付事業については、高齢者の長寿を祝い社会の一員としての敬意を表すという重要な役割を担っていますが、公的な財源や人材などの限りある資源を、この後も投入し続けていくべきなのか、孤立リスクの高い層に届くような事業に振り向ける必要があるのではないかと感じています。このため、事業の見直しに関するアンケート設問(問36～38)にて、アンケートを実施し、来年度において、具体的な施策を検討していきたいと考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 福祉センター予算で支援できない人は誰か

内容: 老人福祉センターの管理運営費は年間約1.1億円規模ですが、
 この費用で“支援できていない高齢者像”を、市としてどのように認識していますか？

① 背景

- ・老人福祉センターの管理運営費は年間1億円超。
- ・利用者像はある程度固定化している可能性がある。

② 理由

- ・大きな予算が、特定の層に集中していないか確認したい。
- ・使えていない人への代替手段を考える必要がある。

③ 補足

- ・「コスト削減」ではなく「効果最大化」の視点を導入すべきではないか。
- ・アウトリーチ型施策への転換可能性があるのでは。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

- ・老人福祉センターの来館者の利用目的は、お風呂、カラオケ、卓球、休憩スペースで休憩等といった娯楽が主であり、コミュニティの場となっています。
- ・老人福祉センターの利用は、施設の管理スタッフのお話では、同じ利用者が毎日のように頻繁に来館しており、ときどきお友達を連れてくるといった状況です。
- ・今後、建物や設備の老朽化、利用者の固定化、高額な維持管理費といった課題を解消し、公平かつ効率的に全世代の利用に資するよう、現在老人福祉センターで提供している機能の一部を、今後計画される後継施設に移転し、集約化や複合化等を進めていくことになると考えています。
- ・事業の見直しに関するアンケート設問(問39)にて、アンケートを実施したいと考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にも共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 行政の縦割り(データ・支援の断絶)

内容: 高齢者が市内外の病院や施設へ転院・入退所した場合、福祉・医療・介護の各部局間で情報はどこまで連携されていますか。

その過程で“誰もフォローしなくなる人”は発生していませんか？

① 背景

- ・高齢者は、医療・介護・福祉をまたいで生活する。
- ・転院・施設移動の際、情報が分断されやすい。

② 理由

- ・部局間の隙間で、誰もフォローしない人が生まれ、支援が届かなくなりやすい。
- ・最も支援が必要なタイミングで切れるのは致命的。

③ 補足

- ・縦割りの問題を抽象論で終わらせないで、実際のケース連携の有無とその対応実績を具体的に確認すべき。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

- ・内部では、生活福祉課や必要に応じて市民課、保険年金課、障害福祉課などと連携しています。
- ・外部では、地域包括支援センター、社会福祉協議会、大里広域市町村圏組合介護保険課、介護施設、病院、成年後見センターなどと連携しています。
- ・支援が必要な方の支援が途切れないように情報共有や引継ぎ等を行っています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 誰が最初に気づき、どこにつながるのか

内容: もし「自治会にも出ない」「敬老会にも来ない」「デジタルも使えない」独居高齢者がいた場合、
 ③ 現行制度の中で、その人に最初に気づくのは“誰”でそして、気づいた後、どこにつながる設計になっていますか？

① 背景

- ・自治会不参加、敬老会不参加、デジタル非対応という高齢者は現実に存在。
- ・現行制度では、その人が「見えない存在」になりやすい。

② 理由

- ・計画が本当に機能しているかは、最も孤立した1人を想定したときに分かる。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・「見えない存在」に何か起きた場合に、最初に気づくのは、専門職ではなく非専門職(インフォーマルな担い手)である可能性が最も高いと認識しています。

・最初の気づきは、隣人、配食サービス事業者、民生委員、自治会長、新聞配達員、電気・ガス・水道の検針員、宅配業者などであり、そのような地域のインフォーマルな担い手から市・地域包括支援センターや消防・警察に通報が入ります。その後、地域包括支援センターや市で協力し、施設や病院などと相談しながら、個別ケースごとに支援を行います。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 基本計画の「目指す高齢社会の将来像と時間軸」

内容: 本計画で示されている「目指す高齢社会の姿」は、いつ頃の熊谷市を想定した将来像でしょうか。
 また、この3年間の計画は、その将来像に向けてどの段階まで進める位置づけと考えていますか？

①背景

- ・人生100年時代として平均寿命が100歳まで生きることが、益々当たり前になる社会です。将来像が抽象的だと、施策の評価軸が定まらない。
- ・市民が「今やっていること、どのような計画が実施され、改善されるのかの意味」を理解しにくい。

②理由

- ・計画の“現在地”をはっきりさせる必要がある。
- ・次期計画(次の3年・6年)への連続性を意識、認識、すべき。

③補足

- ・行政に「長期ビジョン」を言語化、可能な限り明確化してもらう。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・次期計画で掲げる将来像(案)「いきいきあんしん 共生と持続のまち くまがや」は、未来に目指すべき長期的な理想像と認識しており、将来像そのものは、あえて抽象度の高い言葉を使用しています。もう少し具体的な説明文は、「具体的には…」以下に4文ほど書いています。

・この度、将来像の中の「元気で長寿」という言葉を「共生と持続」に修正しようと考えていますが、資料に記載しましたとおり、これは決して「元気」や「長寿」を否定するものではなく、一人一人が元気で長生きすることは不変の願いであり土台となるものですが、『高齢社会対策大綱(内閣府、R6.9.13改正)』や本市の各種計画類との整合性を踏まえ、「①今後高齢者の割合がさらに大きくなる中で全世代がつながり合い支え合って地域を創っていく必要があること」、「②そのような地域社会を未来に持続させていかなければならないこと」を表現するために、「元気で長寿」という個人寄りの言葉から「共生と持続」という地域社会全体寄りの言葉へと修正するものです。なお、前段の「いきいきあんしん」は、高齢者が社会で活躍している状態や快適に暮らしている状態といった、良い状態を表す核となる言葉として、このまま継続使用したいと考えます。全体として、個人と地域をバランス良く取り入れた、時代に合った将来像になると考えています。

・高齢社会対策基本計画は、法的に3年ごとの短期サイクルで見直すことになっており、令和9年から令和11年の3年間は、目指す理想像に対して、まだまだ種まきのような段階であり、行政・専門職が主導し、既存の医療・介護サービスの連携強化を図りつつ、行政・専門職と地域のインフォーマルな担い手とが協働していく体制を拡充していくことになると思います。

・長期的には、例えばですが、地域ごとに福祉コーディネーターを配置し、コーディネーターをリーダーとして、地域住民が自分たちで、助け合いの会議や、見守り支援・買い物支援などを立ち上げ自走していくといった地域ができれば、それは理想的であると思います。地域ごとに差があると思いますので、どこかの地域で成功事例を作り、その地域をモデルとして他の地域へ横展開するのでもいいかもしれません。行政としては、環境整備、後方支援、活動が大変な地域への重点的な介入などが仕事になってくるかと思っています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様へ共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

高齢社会対策基本計画策定に関する御意見・御質問

委員氏名

提出日

2025/12/16

御意見・御質問

件名: 将来像に耐えうる実現可能な取りこぼし対策策定されているか

内容: 将来、地域活動やデジタル施策に参加できない高齢者が今以上に増えることを前提としたとき、
 ⑤本計画の将来像は、そうした“参加できない人が多数派になる社会”にも柔軟に、耐えうる設計になっていますか？

① 背景

- ・高齢化の進展により、「自立・参加・交流」が難しい人は確実に増える。

- ・現行の将来像は、比較的元気な高齢者像が中心？でサポート、支援の取りこぼし要因となる。

② 理由

- ・将来像が“理想論”に留まるリスクを避けたい
- ・最も厳しいケースを想定してこそ、計画は強くなる

③ 補足

- ・「参加できない人をどう支えるか」という本質的課題に焦点を合わせて、訪問、伴走型支援の位置付けを高めるべき。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/16

事務局の回答や対応方針等

・現行計画の将来像は、元気な高齢者の個人像といった印象が強く、御指摘のようなことに耐えうるように感じないと思います。次期計画の将来像では、地域共生社会の構築を目指していくような言葉に修正したいと考えています。

・具体的な施策では、取りこぼし対策も含めて検討していくことになると考えています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にも共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

将来像の修正案に関する意見・質問

委員氏名

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名:市民視線で「将来像」の不明確点

内容:問題点

- ・「共生と持続」という言葉が美しいが抽象的
- ・4つの箇条書きがすべて“理想状態”で、優先順位や現実との距離が見えない
- ・「自ら～取り組んでいる」「自ら～創り出し」という表現が多く、“できない人はどうなるのか”が書かれていないようです。

市民が感じやすい疑問

「頑張れる高齢者の話だけ？ 病気や認知症、独居の人は“共生”の中でどう守られるの？」

意見

将来像として“共生と持続”を掲げる方向性には賛成ですが、市民目線では『自ら取り組める人』を前提にしているようにも読めます。

取り組みが難しくなった段階でも包み込まれる社会であることが、もう一段、言葉として補足されると安心感が高まると感じました。

<事務局使用欄>

事務局受付日 2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

- ・将来像の記述は、計画の最上段に示す理想状態を記述するものですので、あえて抽象度の高い言葉を使用しております。
- ・4つの箇条書きについては、「いきいきあんしん 共生と持続のまち くまがや」という言葉と比べて少し具体的に説明したものになりますが、これら4つは、理想状態になっている熊谷市の姿を、少しずつ視点・観点をずらすことで見えてくる4つの相(側面)といったものになります。理想状態になっている熊谷市とは、例えば「～となっている社会」であり、また「～となっている社会」でもあり、また「～となっている社会」でもあります、というような説明記述です。特段、4つの箇条書きに優先順位を設けてはおりませんが、まずは健康・元気を基盤としながら、それ以外の3つ(地域への参画、地域共生、尊厳)といった感覚でいます。
- ・理想状態を記述する文脈においては、「できない人」を置いておらず、100歳以上でも、ベッド生活の方でも、引きこもりがちな方も、認知症の方も、障害のある方も、どのような方であっても程度の差はあれども、本質的に、「生きがいを持って自らの人生をより良く生きたい」、「自分の意思で生きていきたい」、といった思いを心の中に持っているはずであり、また、それを実現できる潜在能力を持っているはずである(自分はやればできる、誰かに支援されるだけの存在ではない)、といったように、人をあきらめていない記述をしています。
- ・ただ、現実理想状態とのギャップが大きく、デジタル化の流れなど努力に頼ることへの限界、身体機能の低下による移動困難、多数の専門職が時間と労力をかけてサポートしようやく一人の方の生活の目途が立つといった困難事例が増えてきていること、高齢者自身が自らをあきらめている発言が多いなど、様々な問題があることも認識しています。
- ・今回の将来像の修正で「共生」を掲げた意図は、元気な方が活躍する場を広げることだけでなく、地域全体がセーフティネットとして機能することにあります。また、「持続」により、一時的ではなく未来に続いていくことを表現しています。
- ・将来像(具体的には)の中で、「高齢者一人一人の尊厳が守られ、安全で快適な環境の中で、どのような状態にあっても孤立することなく、その人らしい人生を最後まで全うできる社会」と記載をしていますが、支援の網の目からこぼれ落ちてしまうのではないかと市民の方から誤解されないように、「どのような状態にあっても孤立することなく」を「どのような状態にあっても誰一人孤立することなく」とするのはいかがでしょうか。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail: [REDACTED])

(FAX: [REDACTED])

将来像の修正案に関する意見・質問

委員氏名

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名:市民視線で「施設体系」の不明確点

内容:問題点

- ・施策数が多く、重点が見えない
- ・「地域」「ボランティア」「参画」が多く、行政がどこまで責任を持つのか不明確
- ・「令和8年度に見直し」とあるが、何を基準に見直すのか不明

意見

施策体系を見ると、参画や活動促進が充実している一方で、参加が難しい方の尊厳や選択をどう担保するのが、市民には少し見えにくいと感じました。
 施策の中で『支えたくても事情があり支える側に立てない、支える側に回らなくても守られるべき弱者や独居者』のことがもう少し明確になると安心につながると思います。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

- ・現行計画では、アンケート結果や前回計画での取組状況等を踏まえて重点課題を9個記載しておりますが、御指摘のとおり、各論部分の施策数が多く重点が分かりにくくなっていると思います。
- ・次期計画においても、修正後の新たな将来像等と、アンケート結果や現行計画の取組状況等を踏まえて、重点課題を抽出したいと考えておりますが、次期計画の施策については、重点課題を基準として、事業の継続・廃止・拡充・縮小、あるいは新規事業案を考えるのか、という流れになると思います。
- ・その中で、地域共生社会の実現を目指すことは、決して行政が自身の責任を放棄したいからというわけではないことは説明していきたいと思ひます。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様と共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 [REDACTED] 宛

(E-mail: [REDACTED])

(FAX: [REDACTED])

市民アンケートに関する意見・質問

委員氏名

[REDACTED]

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名: アンケート全体構成に対する根本的な質問・意見

内容: 本アンケートは「市民の実態把握」なのか、「事業見直しの合意形成」なのか、目的が混在していないか。

・前半(健康・生活・地域・デジタル等)は実態把握する目的か?

・後半(問36～41)は政策判断・財源配分に対する意思確認する目的か?

☞ 市民にとっては

「自分の生活を聞かれている調査」なのか、「事業廃止・転換の是非を問われている投票」が目的なのか
が同じ調査票に並んでいるため、心理的負担と回答バイアスが生じる懸念があります。

意見

→ 少なくとも事業見直し設問の前に

「ここからは、市の限られた財源の使い方についてのご意見を伺います」

という目的明示の区切り文を入れると何の目的かである理解できて、回答バイアスを防げるかも。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

・設問1～35は、これまでの調査(R5実施)を踏襲しつつ、現在の生活実態・ニーズを把握することが目的であり、これは本アンケートの主目的です。さらに、今回は、地域共生社会に関連する設問を追加し、例えば、地域活動にもっと参加したい気持ちはあるがどうしたらいいかわからない人など、施策の潜在的なターゲット層を探ることも目的のひとつです。

・設問36～41は、合意形成ということではありませんが、事業見直しや資源配分の参考とするために設定しています。アンケートとしては副次的なものになります。設問35までとは毛色がかなり変わるものですので、転換箇所が分かるように、事業見直し設問の前に「前置き文章」を記載し区分けしています。

・前置き文章を記載していますが、実際に送付するアンケート調査票では、配置を工夫するなどして、回答者が混乱しないよう留意したいと思います。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail: [REDACTED])

(FAX: [REDACTED])

市民アンケートに関する意見・質問

委員氏名

[REDACTED]

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名:

内容:「小地域ネットワーク」「多世代交流拠点」「後方支援／前面支援」は、市民に十分伝わる用語か。

・問18「小地域ネットワーク」

・問19「多世代交流拠点」

・問41「後方支援／前面支援」

⑤いずれも行政内部では共通理解があるかもしれませんが、市民一般には抽象度が高い。

意見

→ 問17(地域包括支援センター)では丁寧な説明文があるのに、
それ以外では説明不足、粒度が不統一かも

補足提案(例)

・小地域ネットワーク

→「近所同士で困りごとを話し合い、見守りや助け合いを行う仕組み」

・後方支援

→「住民活動をお金や制度で支える役割」

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

・御指摘いただいた用語について、補足説明部分を、以下のように補強修正したいと思います。

【問18】

「小地域ネットワーク(困りごとを話し合い、支え合う仕組み)があったら参加したいと思いますか。」→「小地域ネットワーク(ご近所同士、自治会・町内会、学校区などを単位として、困りごとを話し合い、見守りや助け合いを行う仕組み)があったら参加したいと思いますか。」に修正したいと思います。

【問19】

「多世代交流拠点(誰もが集まり交流できる場所)ができれば利用したいと思いますか。」→「多世代交流拠点(子どもから高齢者まで、地域の誰もが気軽に立ち寄り、交流できる場所)ができれば利用したいと思いますか。」に修正したいと思います。

【問41】の選択肢は、用語の直前に説明がありますが、そもそも御指摘の用語を使用しない形にしてみました、いかがでしょうか。

「1. 住民による活動を金銭的・制度的に支える「後方支援」」→「1. 住民の主体的な活動を、補助金や仕組みづくりなど、裏方から支える役割」

「2. 行政が専門職員を配置し、課題を直接解決する「前面支援」」→「2. 行政が専門職員を配置し、直接、サービスを提供したり課題を解決する役割」

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

市民アンケートに関する意見・質問

委員氏名

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名:基礎資料(数値・グラフ)との関係で生じる問題

内容:数値は示されているが「問いとの関係」が説明されていない。

この基礎資料を読んで、市民は「なぜ自分が判断を求められているのか」理解できるか。

基礎資料では、

- ・高齢者人口の増加
- ・敬老事業の対象者増
- ・老人福祉センター利用者増
- ・支出額の推移

が丁寧に示されています。しかし、

・「この増加が、どんな課題を生んでいるのか」

・「現行制度のままでは何が難しくなるのか」という**“問いへの接続文”が存在しない**。

意見

→ 基礎資料の最後に

「このような状況を踏まえ、次の設問では今後の方向性についてお聞きます」という解釈の橋渡し文が必要。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

・御指摘のとおり、設問と基礎資料との関係が記されておりませんので、事業見直しに関する設問の、「前置き文章」の「つきましては、現在のこれらの事業について、未来の高齢社会にふさわしい形に見直すためのご意見をお聞かせください。」の文中に「基礎資料を参考に」という文言を挿入するですとか、設問ごとに、設問の中に関係する表やグラフを縮小して入れてしまうですとか、何かしらの工夫したいと思います。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様にご共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

市民アンケートに関する意見・質問

委員氏名

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名: グラフが「増えている印象」だけを強めている？

内容: 老人福祉センター利用者数の急増グラフは、コロナ影響をどう説明するのか。

・R2～R3の落ち込み

・R4以降の反動増

☞ 市民が見ると「ものすごく増えている＝現行で十分成功している」

とも「今後さらに財源が必要」とも読めてしまう。

意見

→

・「コロナ禍による一時的減少」という注記

・「1人あたりコスト」など別視点の補足

があれば、設問39の判断材料として理解、判断を助ける。

<事務局使用欄>

事務局受付日 2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

・老人福祉センターの利用人数については、数値に誤りがあり大変申し訳ございません。年間開所日数と一日平均利用人数の数値が誤っております。お詫びして訂正いたします。

・老人福祉センターの年間利用延べ人数については、今回の資料では、令和2年度から始まる表・グラフと平成30年度から始まる表・グラフの2種類用意していますが、市民の方へは後者を出したいと思っています。

・令和2年度は、コロナの影響で休館していた時期がありますが、表・グラフの人数は一年間に換算した数値であり、また、令和7年度は、江南荘が耐震工事で6月から休館していますがその休館期間分を補足した見込み数です。各年度の前提条件をできるだけ揃えようとして、このような補正を試みましたが、そもそも補正をしない方がいい可能性もありますので、その点は再検討したいと思っています。

・利用人数の推移の説明は、「新型コロナウイルス感染症による外出自粛や施設休館の影響により、令和2年度に利用人数が急激に減少し、コロナ禍以降、緩やかな回復傾向にはあるものの、平成30年度の水準には戻っていない状況です。」といったものになると思っています。

・1人あたりコストの数値を持っておらず市民の方に提示できませんが、仮に、一日平均利用人数を全て固定客と想定した場合、令和6年度の実績ベースで、1人あたりの年間コスト＝116,619,000円÷251人＝464,618円、1人あたりの月間コスト＝464,618円÷12か月＝38,718円となります。ただ、この数値をアンケートの基礎資料として提示するのは厳しいと思っています。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。

熊谷市長寿いきがい課 宛

(E-mail:)

(FAX:)

市民アンケートに関する意見・質問

委員氏名

提出日

2025/12/17

御意見・御質問

件名:「意欲はあるが行動できない層」を把握して質問設定しているか

内容:「参加したい」「関わりたい」と答えた人が、なぜ実際に参加できていないのかを追えているか。

・問11:貢献したいこと

・問12:支え合い意識

・問13:ポイント付与賛否

がある一方で、

「それでも参加できない理由(制度・時間・身体・心理)」を横断的に把握して、事業見直しのできる質問設計になっていないのでは。

→ 事業見直し前に

「意欲はあるが行動できない層」を把握しないと、ポイント制度などの施策効果を過大評価する恐れがある。

<事務局使用欄>

事務局受付日

2025/12/18

事務局の回答や対応方針等

・御指摘のとおり、地域活動にもっと参加したい気持ちはあるがどうしたらいいかわからない方は、施策の主要なターゲット層であると認識しています。このため、設問「9-2」で「地域活動に参加していない理由は何ですか。(あてはまる番号をすべて選択)」と問い、できない理由を回答する選択肢を、自由記載を含め11個用意しています。設問「9-2」の回答と、類似の地域活動に関する設問10～12の回答をクロス集計することにより示唆を得られるのではないかと考えています。

・大元の設問9そのものをより良いものに改善するための御提案がございましたら助言いただけますと幸いです。

※いただいた御意見・御質問は、委員様氏名や提出日を記載して、全委員の皆様に共有させていただきます。